

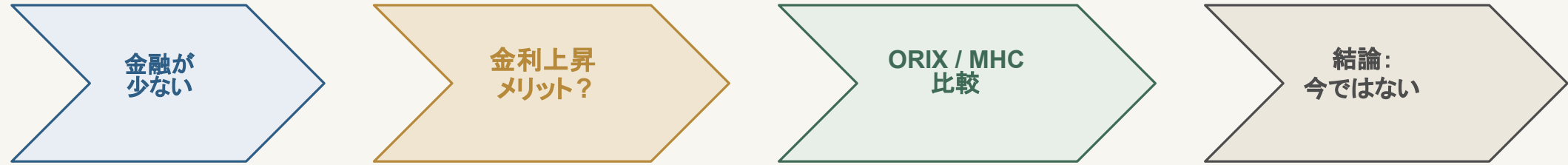
ORIX
vs
MHC

オリックスと 三菱HCキャピタルの比較

「広げる金融コングロマリット」か、
「リース会社の型を磨くアセットビジネス」か

会員向け企業分析プレゼン / 2026年6月

出発点：金融銘柄を入れるべきか？



狙いは「金融セクターを増やすこと」ではなく、ポートフォリオ全体をより強靱にすること。収益性が高くなく、株価も安くないなら、組み入れは慎重でよい。

次の検討テーマは、より直接的に金利上昇の恩恵を受ける「ド真ん中」の金融銘柄。

三菱HCキャピタルの特徴

設備投資を「貸す仕組み」に変える、資産積み上げ型の金融ビジネス

投資判断なし／事業特性のみ整理

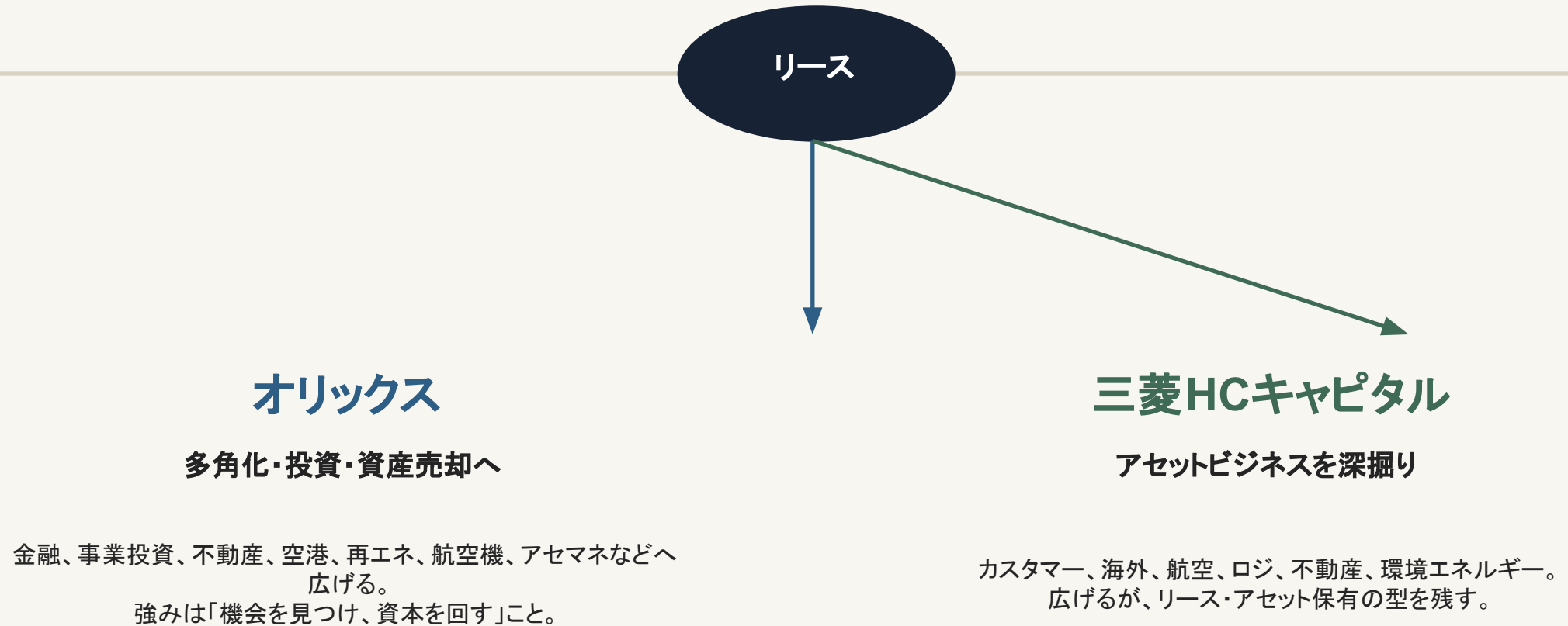


特徴を一言で言うと

「堅いが、薄利。目利きと資本効率で勝負」

- 1 あらゆる設備投資を収益機会にできる**
PC・複合機から航空機、物流、不動産、AIサーバーまで対象が広い。
- 2 契約更新で収益が継続しやすい**
一度契約すると長期にリース料が入り、急激に崩れにくい。
- 3 一方で、資産の目利きミスは損失に直結**
環境エネルギーでは評価損・貸倒れ費用が発生。
- 4 成長テーマは高収益領域への入れ替え**
航空機・物流・不動産へ資源配分し、ROE改善を狙う。

同じリース起点でも、進化の方向が違う



足元の数字:どちらも最高益圏。ただし質が違う

オリックス

2026/3期 純利益

4,473億円

3年連続最高益

ROE

10.4%

前期8.8%から上昇

2027/3期予想

5,300億円

ROE 11.7%予想

還元

大幅増配＋自社株
買い

大型還元が評価材料

三菱HCキャピタル

2026/3期 純利益

1,622億円

4期連続最高益

ROE

8.6%

目標未達だが改善

2027/3期予想

1,600億円

ROE 8.0%予想

還元

51円配当予想

28期連続増配予想

数字だけなら両社とも好調。ただし、オリックスは売却益・投資回収の寄与が大きく、三菱 HCはインカムゲイン積み上げの色が濃い。

オリックス:強みは「買う・育てる・売る」だが、堀としては残りにくい

キャピタルリサイクルは強力な武器。
ただし、利益は市況とExitタイミングに左右される。

評価ポイント	中身	投資上の注意点
強み	多角化、資本配分、案件発掘、売却益の実現力	強みが「ストック利益」として残るとは限らない
金利上昇	銀行・金融収益ではプラスに働きやすい面	信用コスト・資産評価・調達コストも同時に動く
景気悪化	安く資産を買えるチャンスになる	短期では評価損・貸倒・Exit停止で利益が落ちやすい

判断軸:会社予想利益をそのまま恒常利益と見るのではなく、「平常時利益＋循環的な売却益」と分けて考える。

三菱HCキャピタル:投資しやすいのは、強みの置き場が見えやすいから

得意分野を伸ばす会社。
派手さはないが、事業の「型」はオリックスより読みやすい。

評価ポイント	中身	投資上の注意点
強み	航空、ロジ、不動産、カスタマー領域などアセット軸で積み上げ	高ROE化には時間がかかる
金利上昇	調達コスト上昇が先に効きやすい	金利上昇局面では株価に下押し圧力
規模の経済	同じ分野に集中すれば調達・運用・リスク管理の効率化余地	巨大な堀というより、地味な効率改善

判断軸:「高成長株」ではなく、金利上昇などで嫌われた時に、安定成長＋増配をどこまで安く買えるか。

金融に「深い堀」は生まれにくい

金融は、儲かるところに資本が集まり、リターンが均されやすい世界。

規模

ブランド

低コスト調達

顧客ロックイン

規制・免許

オリックス

規模・ブランド・調達力はあるが、どれも圧倒的とはいえずらい。堀というより「うまく資本を動かす能力」。

三菱HC

リース・アセット分野での規模と専門性は積み上がる。ただし、高い価格支配力を持つ堀ではない。

結論：両社とも「ワイドモート企業」ではない。評価は、堀ではなく資本配分・リスク管理・買値で決まる。

金利上昇への感応度は、両社で逆に見える

オリックス

金利上昇の恩恵を
受けやすい面がある

銀行・金融収益、運用利回り、投資機会の面ではプラス。ただし信用コスト・評価損には注意。



三菱HCキャピタル

基本的には
短期マイナス

調達コスト上昇が先に効く。契約更改・新規案件で転嫁が進むまで時間差がある。

したがって、金利上昇を理由に三菱 HCを今すぐ買うのではなく、むしろ金利上昇懸念で嫌われた局面を待つ発想が合う。

ROE向上は両社の課題。ただし難易度は高い

会社	ROE向上の道筋	なぜ簡単ではないか
オリックス	売却益、資本リサイクル、自社株買い、アセマネ化	売却益は市況依存。自己勘定投資は資本を食う。
三菱HC	高収益アセット積み上げ、ポートフォリオ入替、配当性 向引き上げ	リースは利ざやが厚くなりづらく、BSが膨らみやすい。

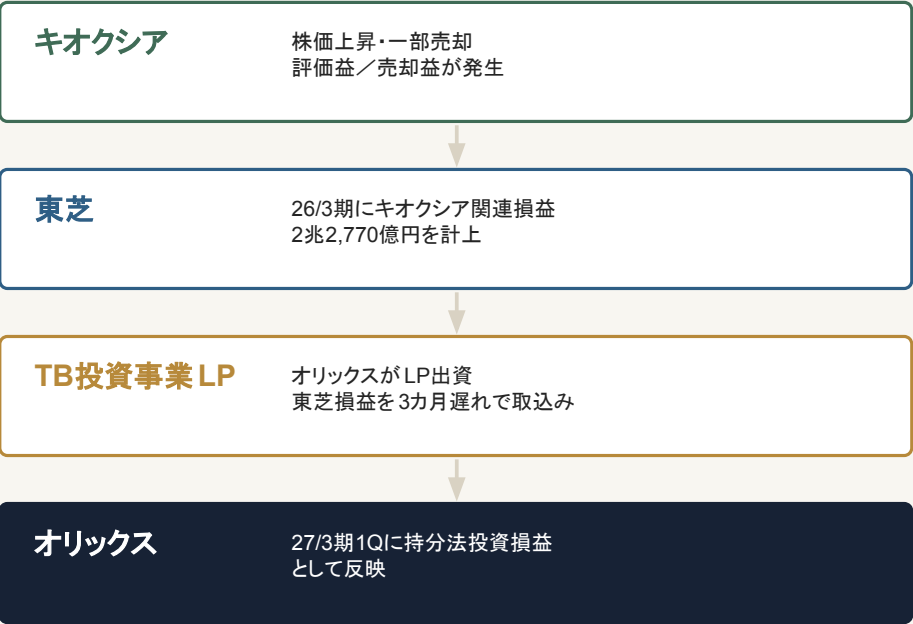
投資家が見るべきもの

会社目標の ROEではなく、「一時的要因を除いた巡航 ROE」が何%か。ここが高くないなら、高い PBRを払う理由は弱い。

キオクシア株高は、東芝経由でオリックスの一時利益を押し上げる

結論:オリックスにとってはプラス材料。ただし「本業の堀」ではなく、投資先評価・売却益の波及＝キャピタルリサイクル利益。

利益が届く経路



※ 東芝は26/3末時点でキオクシア株式 17.62%を保有。

オリックスへの試算影響

27/3期1Q 税引前

約1,798億円

持分法投資損益を計上見込み

純利益への追加影響

+700億円程度

27/3期会社予想に対する増益試算

ここが重要

この試算には、東芝が2026年4月1日以降に行ったキオクシア株式の処分、およびその後のキオクシア株価変動は含まれていない。つまり、今後も上下にブレる余地がある。

投資上の読み替え

ポジティブ材料ではあるが、継続的な金融収益ではない。オリックス評価では「巡航利益」から分け、資産売却・評価益として割り引いて見るべき。

投資の肝は「良い会社を当てる」より、嫌われる局面を待つこと

オリックス



買いたい局面: 金融危機・信用不安・資産価格下落で「怖い」と見られる時

三菱HCキャピタル



買いたい局面: 金利上昇で嫌われ、安定増益・増配の価値が割り引かれた時

いま買う
理由は弱い

ポートフォリオへの示唆：金融を入れるなら、まず「役割」を明確にする

目的	オリックス	三菱HCキャピタル
金利上昇メリット	比較的あり。ただし金融ショックに弱い	むしろ短期逆風になりやすい
安定収益の積み上げ	売却益の比重が気になる	こちらの方が読みやすい
収益性改善の確度	キャピタルリサイクル次第	規模・集中による改善に期待
現時点の組み入れ	株価が上がった後で魅力は薄い	投資しやすいが、金利上昇局面では待ちたい

結論：三菱HCの方が投資しやすい。
でも、今の目的が「金利上昇に強い銘柄探し」なら、次に行くべき。

金利上昇の恩恵を受ける銘柄を探すなら？

銀 銀行

- 初期の利上げ局面では恩恵大
- ただし預金金利・市場調達コスト上昇でメリットは逡減
- 今後は与信費用や債券評価損も論点

結論：恩恵はあるが、もう単純ではない

生 生命保険

- 新規投資利回りの改善は追い風
- しかし既存債券の含み損が重い
- 急激な長期金利上昇局面では見え方が悪化しやすい

結論：長期ではプラス、短中期は注意

損 損害保険

- 金利上昇メリットはある
- 生保より負債構造がシンプルで見やすい
- 料率改善・政策株売却・資本効率改善も追い風
- ただし自然災害リスクと株価織り込みには注意

結論：相対的には最も考えやすい

！ 現時点の仮説

“金利上昇メリット銘柄”を探すなら、銀行・生保を単純に買うよりも、損保のように“金利以外の追い風”もある企業の方が検討しやすい。

→ 次回プレゼンにつなげる論点

本当に狙うべきはどこか？

- 金利上昇で真ん中の銘柄は？ ・市場がまだ織り込んでいない恩恵は何か？
- “ポートフォリオを強靱化する金融銘柄は存在するか？

参考資料

オリックス

2026年3月期 決算説明会資料、統合報告書2025、有価証券報告書

三菱HCキャピタル

2026年3月期 決算概要資料、統合報告書2025、有価証券報告書

補足

決算説明会動画・説明ログ、各社IRライブラリ

注:本資料は会員向け分析・議論のたたき台です。投資判断では、最新の有価証券報告書・決算説明資料・株価水準・金利環境を確認してください。